

東京日野RCは、2006年、CLPの実施に向けて細則の改定を行った。土台となったのは、CLPに付加されたRI推奨のクラブ細則案であったが、当クラブの良き慣行や独自の事情も十分に勘案した。勘案した結果は、とくに委員会の構成に現れている。例えば東京日野RCでは、推奨細則で要請されているクラブ管理運営委員会を設置しなかった。理由は、その機能が理事会と重なること、年度目標として充実した例会の継続を掲げる以上、そのための独立した委員会の存在は必要不可欠と判断したことにあつた。さらに当クラブの細則は、推奨細則のように奉仕プロジェクト関係を一つの委員会にまとめず、これまで通り職業・社会・国際・新世代の四つの奉仕委員会を存続させている。東京日野RCではRIや地区のプログラムに協力するのは当然としても、何よりも地域社会のニーズに直接応えるプロジェクトを組みまた韓国のロータリー・クラブとの双子クラブを結成しているの、そうしたクラブ独自の活動に支障をきたす恐れのある構成を採用するのは控えたかったからである。

さて、当時RIの作成したパンフレットの表紙に、CLPの目標として三つの項目が記されていた。一つは長期的計画の策定であったが、確かにCLPの精神に則り細則を改正してみれば、年度間のコミュニケーションが積極的にとれることになり、東京日野RCの場合には意識の面でも組織の面でもロータリーの単年度主義に囚われすぎることなく、社会奉仕・新世代奉仕のプログラムや会員増強活動に取り組みやすい仕組が作れた。二つ目は委員会組織の簡素化である。東京日野RCの委員会構成はクラブ運営・奉仕活動・財団の三本柱と六常設委員会に収まったため、開店休業状態の委員会もなくなり、委員会相互の連携や会員への情報提供も容易となった。そして最後の項目として示された、全会員参加の推進に関しては、当クラブでは、その起点としての役割を果すのは例会であると考え、例会の運営に関わる委員会にのみ四つの付属の小委員会(会場・親睦・出席・会報)を残している。この小委員会の協力関係がうまく作動すれば、クラブは間違いなく活性化するであろう。

CLPを採用して3年半、会員の評価はまちまちだが、私としては、CLPのおかげでクラブの組織と活動がきちんと整理されクラブの個性と実態に即した細則が出来たと思っている。



全体事業報告

本年度、当クラブでは、「守ろう！湧水、伝えよう！水文化」をテーマに全体事業を、2回に分けて実施しました。

1回目は「湧水ウォーキング」と題して、公募した親子と会員総勢約100名が八王子市内の湧水を歩いて巡り、実際の湧水を肌で感じてもらうものです。市内の湧水を3ヶ所訪ねましたが、子供達も初めて見る湧水に直接手を入れて、水のきれいさと冷たさに感動しているようでした。

2回目は「湧水と水文化フォーラム」と題して、①多摩美術大学渡部教授による「水文化」の講演 ②湧水ウォーキングに参加した小学生の感想文の表彰 ③留学生による自国の水文化に関する発表 ④国立東京工業高等専門学校の庄司教授による湧水の分析講義等を実施しました。

子供たちの感想文の中に、「普段車で通りすぎてしまう場所に、自然に湧き出る水があったことにびっくりしました。これを10年後、20年後大切に残したい。」というくだりがあり、今回の目的である水文化を何とか引き継いでいきたいという我々の思いが十分に伝わり、全体事業の成功を実感しました。

最後になりますが、後援頂きました、八王子市、八王子市教育委員会、八王子商工会議所並びに色々ご協力頂きました方々に紙面を借りて、お礼申し上げます。

